

菅野 哲

1948年飯舘村で生まれ、
福島県立相馬高校卒業後に家業の農業に従事後
飯舘村森林組合に就職、
1969年飯舘村役場に奉職、
2009年3月定年退職後、農業に復帰し、
2011年3月11日の東日本大震災と原発事故により
福島市で避難生活をし、飯舘村の農地での試験栽培、
そうま広域シルバー人材センター 理事長

「福島第一原発事故から10年 いま、伝えたいこと」

2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原発事故から早くも10年の月日が過ぎます。

当時62歳の私もまもなく73歳を迎えようとしている。

この10年という時間は、私の**人生ではどう捉えたら良いのか**思いつかない。

あまりにも人生を考える上で**想像を超えるもの**があり、予期せぬ人生の一コマですから、これまでの人生の7分の1を費やしてしまったことになる。

人生の区切りの60歳を迎え、**シニアライフプランをもって農業**に復帰し、時代に即応した新しい農家経営の改善に取り組んだばかりでした。

飯舘村民有志の避難先での福島市西部の荒井地区での 共同菜園 2013年

写真 菅野哲



福島市内の避難先で、新築、農地の取得による長期避難生活



飯舘村民の半数参加したADR闘争

第1号

2014・12・16発行

飯舘村民救済申立団ニュース

発行責任者：飯舘村民救済申立団 事務局
福島県伊達市伏黒字一本石41-2 F5-1
事務局長 佐藤忠義

HP：<http://kyusaimoushitatedan.jimdo.com/>



11月14日ADRセンターまで行進しながら訴えてきました。

謝れ！償え！
ぐえせふるさと飯舘村
原発被害糾弾 飯舘村民救済申立団

飯舘村での試験栽培農場

日大との連携



飯舘村での試験栽培農場 ソルガム・陸稻・ヤーコン等の エネルギー作物の試験栽培



それが、計画的避難とはいえ**事実上強制避難**だった。人生をかけて作り上げてきたものが全て壊され、一からのやり直しを強いられた。

飯舘村民の避難は、避難指示指定が事故から**一月以上も遅れた**ことで、避難先が見つからずに**長く高放射線量下の村内に居住**していて**確実に被爆**していたはずであるが、避難に当たっては、**スクリーニングもなされず、線量検査もされなかったのは何故なのか**。国・県の災害対応のマニュアルには記されていたはずである。

10年を経過した今では計測も出来ないし、行動記録も曖昧になってきているから判定は難しいということになるのでは**納得**がいかない。**しっかりした回答**が欲しい。

飯舘村では村の**80%の除染**ができておらず、**山も川も放射能汚染はそのまま**で、野山の恵みである山菜もキノコも**後何百年と食べることも出来ない**という。

まだまだ住民は苦悩しながら生きていかなくてはならない。**必ず原発事故が起こればこうなるのだという、この現実を日本国民は知り、後々の代まで伝えるべきだ。**

今の飯舘村は、**8割近くの人**が避難先で暮らしているのは何故か。生業の目途が立たないばかりではなく、**事故前のような暮らしが出来ない**からであり、**国・県の外からの移住政策**ばかりがアピールされていて、**既存の住民の生活再建施策が乏しい**からであると感じている。

「風評」という言語は、**政治・行政が作り上げた戯言**で、如何にも安全だとアピールし国民を安心させ黙らせようとする**まやかしの手法、全く本末転倒**です。被災地では放射能による**長期的汚染の被害が実在**しているのですから。

ましてや国も東電も事故の**責任を取る姿勢もないし、原賠審のいう慰謝料等の賠償金を支払うことで済まそう**としているように取れる。いくつかの裁判の例を見るに、**の司法の場でも明らかにされないのか**と思うときに、このままいくと**私たちは棄民にされるのではと危惧**している。

以上のような状況から、私は**国と東電**が避難者に今後の被爆に対する不安を残し、安住生活を破壊してしまった**責任をきちんと認める姿勢を質したい**。

飯舘村の村民の暮らしに欠かすことのできない**美しかった自然環境の破壊**と安定した社会生活を形成してきた**コミュニティの崩壊**を引き起こし、飯舘村で安心・安全な、そして**充実して暮らしてきた生活の破壊**に対する**代償を求めて、3月5日に訴訟を提起します。**

避難から10年を費やしてしまい、事故前のような飯舘村での暮らしはままならない状況を作り出した**福島第一原発事故は、如何に住民にとって過酷な事故であったか**を理解して欲しいと願うばかりです。

何十年、何百年という何代にもわたって培ってきた自分の生まれ育った**飯舘村は変り果て**、美しかった自然環境は崩れ、黄金色に輝いていた田面は、**いたる所で真っ黒いソーラーパネルに埋め尽くされている**。

事故を起こした福島第一原発は、**事故収束と廃炉に向けた事故処理**が行われているが、そのためにはどれだけの**無駄な歳費**が支払われているかを考えるに、このことによっていかに**日本国民は将来への負担を抱えたか**である。

このような危険極まりない原発を**再稼働とか新設とか**を語る**政治・経済界**は、**福島県の被災者の心を全然理解していないこと**につながり、**底知れぬ恐ろしさ**さえ覚える。

国民が安全安心して暮らせる国づくりを基本とすべき日本国憲法の下で、**国民不在の知らされないところでの政治**がなされてきている現状を垣間見るような**メディアの報道は、いかななものか**。**姿勢を正して真実をきちんと導き出し、国民に明らかにしていく真の精神が掛けいる**と感じている。

最近の政治家の不祥事にはあきれ果てる場面が多々見受けられるが、「**ウソ・偽り**」のない**クリーンな社会を創造する義務を忘れ**、自己本位で独裁的な方向に導こうとしているように思えてならない。

国家は、国民の利益を増進させ、安定して暮らせる社会を築くべきで、其の転機に在る時期ととれる。

コロナ禍ではあるが、国民はもっともっと政治に関心を持ち、国民一人一人の意思が格差なく反映され、平和で民主的な日本国とするために行動することが何よりも大切なことと最近では特に思えてならない。

飯舘村の再生は、一言では言い表すことができないほどに、場所も人の心も崩壊してしまっているのが現状である。

インフラの整備と外からの移住政策の推進に邁進する国家政策では村の再生はかなわないと思っているが、**村長の交代**による新たな施策に期待したいと考えている。避難している以前の飯舘村民の生活再建施策が乏しい中でも、**新村長の公約は「ふるさと再生」ととれる考えに期待をかけたい**と思う。

生業の再生なくして帰村しての生活は成り立たないのですから、**経済基盤の立てなおしに行政の力を発揮してほしい**と祈願している。

長期的放射能汚染が続く飯舘村で、安心して暮らせる生活再開を心待ちしているのが、避難している多くの飯舘村民の願いですから、国・県はその願望に寄り添った**的確な対応をすべき**と思う毎日である。